

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670400229		
法人名	有限会社 中川開発		
事業所名	グループホーム阿南向日葵		
所在地	徳島県阿南市日開野町筒路10-1		
自己評価作成日	平成26年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員が利用者や家族の思いをくみ取れるような介護をめざし、自分の目標に向け施設内外への研修に参加したり資格取得に向け勉強している。家族とは、馴染みの関係が持てるよう積極的にコミュニケーションをとっている。近隣には大型ショッピングセンター、駅、銀行、本屋など人が集まりやすい所ですが、静かで畑や、山など自然もたくさん残っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大型スーパーや商店が立ち並ぶ市街地に位置している。利用者と職員で食材の買い物へ出かけている。家庭菜園で季節の野菜を栽培し、利用者と職員で成長や収穫を心待ちにしている。ホールからは、調理風景を見ることができ、室内には料理の音や匂いを感じることができる。管理者と職員で協力医療機関との連携を図りつつ、重度化した場合にも適切な医療を受けることができるようチーム支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲げ、毎朝の申し送り時に出勤者全員で唱和し、利用者に馴染み深い地域でよりよい老後を過ごして頂けるよう申し送り時に話し合っている。	事業所の理念をパンフレットや事業所内等に掲げている。なお、毎朝、職員間で企業理念を唱和しているが、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を十分に共有するまでには至っていない。	代表者や管理者、職員間で、事業所の理念について再確認を行って意識づけを図るなどし、さらなるサービスの質の向上に取り組みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の人とあいさつを交わしたり話をしたりイベント時には参加をして頂き交流を図っている。近くのスーパーや理容、美容室に利用者をお連れして馴染みの関係をつくっている。	利用者は近隣の商店街へ買い物に出かけている。外出時に近隣住民と挨拶を交わすなどして交流を図っている。事業所の行事に、地域のボランティアの方を招いており、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練や認知症の知識や理解を深めるための講義などに、地域の方に参加して頂けるよう呼びかけたり、案内を出したりし、共に学んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2か月に1回の会議は、家族や地域の人、包括センター、市役所、医師、市議員など他職種の人たちで提案や意見が出、サービスの向上が図れている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。事業所の行事や祭り、催し物の開催と併せて休日に実施するなどの工夫が見受けられる。しかし、開催日程等の都合から市担当者や地域包括センター職員の十分な出席を得るまでには至っていない。話し合った内容を職員へ周知し共有化を図るまでには至っていない。	運営推進会議の目的と意義を十分に確認し、市担当者や地域包括支援センター職員を含む外部の方から、事業所の取り組みや具体的な改善課題について話し合うことができるよう検討されたい。また、全職員で会議内容を共有し、サービス質の向上に反映されるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密にとったり運営推進会議にも参加してもらい、意見や助言をもらっている。	管理者は、市担当者に電話で連絡を行ったり、直接、窓口へ書類を提出したりして、市担当者との交流を図っている。事業所運営について相談を行い、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者や職員は、身体拘束の対象となる具体的な行為を、正しく理解し、家族とも協力しあい身体拘束のないケアに取り組んでいる。	全職員で身体拘束の弊害を理解し、拘束しないケアに向けて取り組んでいる。安全確保の理由から玄関にセンサーコールを取り付けているが、職員は利用者に寄り添って接し、見守りや声がけを中心とした支援を行うことで、利用者の自由な暮らしへと繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や申し送り、カンファレンスで、具体的な事例を挙げ意見交換や、指摘し職員同士でも注意しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだり、月1回の職員会議で勉強したり、外部の方からの意見を受け金銭管理に不安を持たれている家族へのサポートに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明し、同意を得たうえで契約をしている。改正や利用料の改定が発生した時は、家族会で説明したり、送付したりし理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話などで職員に伝えられた要望は、やりとりノートに記録し、全職員が自分のものとし、対応している。利用者からの要望も家族に説明し、協力を得ている。運営推進会議でも報告し、意見をもらっている。	家族の来訪時、また電話等で把握した意見や要望を、事業所独自の“やりとりノート”に記録している。毎日のミーティングや申し送り時に職員間で話し合って共有化を図り、サービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議で家族会の打ち合わせや反省をしたり、普段感じている意見を出し合ったりして反映させている。	毎月の職員会議や、管理者と個別で話す機会を設けるなどして、職員の思いや意見に耳を傾けるようにしている。管理者は、職員の気づきやアイデア、要望を代表者へ伝達し、職員の働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の意見に耳を傾け、イベントの後には慰労を兼ね、食事会を設けたりとストレス緩和に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修に参加できるよう、勤めている。研修内容を全職員が共有しあってケアの向上に活かせるよう話し合いの場を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、ネットワークを利用し他施設との交流を持ち、情報交換の場設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から本人や家族と面接し、不安や要望などの訴えがあったときには、傾聴し精神的にプラスの方向へ導くような環境づくり、信頼関係を築き、接しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約に至るまでに家族の要望や困っていることを受け止め信頼関係を気づき、安心してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が一番必要としていることは何かを見極め、相手の身になってケアを行っている。家族の不安や要望に対して一緒に考え今できる事、してあげたい事を他のサービスも含め考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の必要な支援や介護を心掛けながら、これまでの人生を生きてきた自信と自負を持っているので、尊厳を傷つけないようにしながら自立を助け、時には職員から相談するなどお互いが支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員に出来る事、家族にしか出来ないことがあるので、相談しながら、本人の気持ちを理解するよう努力し、一緒に支えていく関係を築くよう努めている。イベントや家族会への参加を毎回呼びかけ、協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の習慣や決まった日に行っていた行事や、友人との関係が継続できるよう支援している。	本人のこれまでの生活歴や習慣を把握し、家族の協力も得て、利用者の馴染みの関係が途切れることのないよう支援している。友人や知人の来訪を快く受け入れ、居心地良く過ごしてもらえるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気の中での共同生活なので利用者同士のコミュニケーションも生まれ、職員は潤滑油的な存在になるよう、声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者や家族が関りを必要とするケースは少ないが、これまでに携わってきた馴染みの関係を保てるよう努めています。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向と家族の要望をくみ取り、それらを組み合わせ実践できるよう努めている。	家族から得た情報をもとに、これまでの本人の生活習慣や嗜好の把握に努めている。日頃の利用者との関わりのなかで得た言葉や表情等から、本人の思いに少しでも寄り添うことができるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の基本情報や本人、家族からの聞き取りなどにより生活歴について情報収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の記録や行動計画表にその日の状態を記入し職員全体が把握できるように朝の申し送りや引継ぎ時に必ず伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当職員が個々の問題点をカンファレンスなどで話し合い他の職員と意見交換をしたり本人、家族の要望を聞き入れたケアに取り組んでいる。	利用者の担当職員を定めている。日頃の利用者との関わりを通じて把握したことなどをカンファレンス時に共有するよう努めている。しかし、利用者や家族の意見を十分に踏まえ、モニタリングを行うまでには至っていない。	管理者や職員間でカンファレンスを実施して計画を策定しているが、利用者や家族の意向を反映した支援を実現するためにも、利用者や家族の意見を加味したモニタリングが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の状態を生活記録、業務日誌に詳細に記入し、それらの情報をケアプランに取り入れ、日々のケアに活かし次へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不意の外出や外泊、食事時間や入浴日の変更にも臨機応変に対応している。また本人希望による買い物や外出などにも同行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	イベントには地域の方々にも参加をしてもらい親睦を深めている。本人が望むなじみの店や病院に行き、心身ともに豊かで安心した生活ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による週1回の往診、及び体調不良時の受診に同行し情報を提供したり指示を仰いでいる。本人が望む他の医療機関への受診も支援している。	入居時に、本人や家族の希望するかかりつけ医の確認を行っている。家族の協力を得たうえで適切な医療の受診を支援している。定期的に協力医療機関の往診や看取りへの協力を受けており、利用者や家族の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、日常の体調管理、急変時の対応、休日、夜間でも看護師と連携が摂れるような体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を中心に安心して入院治療が継続できるように本人、家族、病院関係者との情報交換を行い、退院時もスムーズに、施設での生活に移行できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年も施設での看取りがあり、全職員のチームワークで、家族との終末期に向けた話し合いで、方針を共有し乗り越えることができた。これからもチーム一丸となり取り組んでいきたい。	事業所では、重度化した場合や終末期のあり方に関する対応方針について職員間で話し合っている。本人や家族の意向を踏まえたうえで、医療関係者と連携を図りつつ、チームで支援するよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時についてマニュアルを作成している。職員会議で応急手当や対応方法の訓練を行っているが、職員によっては十分ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月11日を防災の日と決め、地震、水害、火災などを想定した訓練を行っている。	毎月11日を自主防災の日と定めて、職員間で防災・避難訓練等に取り組んでいる。備蓄品を整備したり、定期的な確認を行ったりして災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しく丁寧な言葉がけをし、高圧的な態度をとらない様、自分にきびしく対応している。個々のプライバシーを損なわない様、些細なことにも気配りを欠かさず、生活支援をしている。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損なうことのないようりゆういしている。とくに排泄や入浴の支援時には、些細なことにも気配りを欠かさず相手を思いやる気持ちで対応するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ひとりひとりの心の思いを引き出し、本当に今なにをどのようにしたいのか、願いは何かなど、本人に寄り添った支援、ふれあいを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人と向き合い話をする中で、何を望んでいるのか把握し、本人のペースに合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や本人希望の美容室、理容室に行かれたり、季節に合った服をさりげなく勧めたり、毎日整髪、ひげそりの声掛けや、支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物に同行したり、施設の畑で採れた野菜を使用することや、せいらくすることで食への関心を持って頂き、食事会では献立のメニューに希望を取り入れている。	利用者と職員で近隣の商店街へ買い出しに出かけたり、家庭菜園で収穫を行ったりしている。リビングからは職員が調理している様子を伺うことができ、室内には料理ができて上がるまでの音や匂いを感じることができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量のチェックを細かく行い栄養補助食品や、本人の好みの物を提供し対応している。ドクター往診時には、状態報告し、その都度指示を受けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食、おやつ後に口腔ケアをしています。対応に難しい方については、歯科医師より、指導を受け対応している。全員が定期的に歯科訪問検診を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者別にチェックシートを作成、排泄パターンが把握できるように努めている。必要に応じて、声掛け、誘導、介助を行い車イス使用者やオシメ使用者にもトイレでの排泄を心掛けている。	利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。利用者がトイレで気持ちよく排泄することができるよう取り組んでいる。トレーニングパンツを使用している利用者への排泄の自立に向けた支援もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆どの方が便秘傾向にあり、緩下剤が必要であるが、食事内容を検討したり、軽い運動、水分補給なども心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望に沿った入浴ができるよう支援している。拒否が多い方には毎日声をかけるようにし順番やタイミングなどにも気を配っている。	週3回、利用者の希望や身体状況に応じて、安心して気持ちよく入浴を楽しんでもらえるよう支援している。浴槽への出入りが困難な利用者には、複数の人員体制で支援するなどの工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息は、本人の希望、体調など状況に応じて自室にて休んで頂いている。夜間就寝時も、本人の希望時に介助しトイレ介助や、オシメ交換し安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示、処方内容がわかりやすく、服薬内容が一目で確認できる記録にしている。薬の追加、変更については、必ず申し送り、各自で記録物の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の味覚を提供し、四季を感じてもらったり、誕生会、家族会、ドライブなどの、催しを計画し、参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外でラジオ体操、散歩、畑での収穫、家族との外出、外泊、季節のお花見やイベント、ひな祭りなどにも出かけている。	毎朝の日課として、戸外へ出てラジオ体操を行っている。また、天候の良い日には近隣の散歩を楽しんだり、季節の行事や花見、ドライブ等の外出を行ったりしている。家族の協力を得たうえで、利用者の思いにそった外出や外食に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの利用者はの金銭管理は家族、施設で行っているが、本人希望時には、一緒に買い物に行っている。いつでも使えるお金があるとのことである。家族には、1カ月の使用内容や、金額を、報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じ職員が家族に電話をしている。家族からの電話や手紙も、取り次いでいる。面会や、電話の途切れている家族には促しの電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な空間づくりには十分配慮をしている。ベンチで腰かけて花や野菜を見て過ごしたり、ホールでは季節の花や行事の写真を飾っている。ホールのソファーでは、日はたぼっこをしながら、談話を楽しんでいる。	事業所の菜園では四季折々の野菜を栽培している。利用者と職員で収穫の日を楽しみに過ごしている。共用空間には観葉植物や花を飾っており、利用者は職員と談話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー、食卓、和室などで、それぞれが状況に応じて心地よい空間にいられるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が望むもの、自宅で使っていた家具、テレビなど馴染みの物を持ち込んでもらい、心地の良い空間が演出できるように心がけている。	居室は日当たりが良く、清潔な環境となっている。利用者一人ひとりが望む品物や使い慣れた家具等を持ち込んでもらい、居心地良く落ち着いて過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要最低限の手すりや、ナースコールは整備している。個々に応じて必要な介護用品やベッドの高さ、居室の座敷など、その人らしく安全、快適に過ごせるように配慮している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に全員で唱和して、常に意識し、利用者がなじみのある地域で穏やかな、老後を過ごせることを目指したケアに努める。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にスーパーや、喫茶店など多くの店舗があり、利用者は、日常的に外出して、顔なじみの関係が築かれている。近所の人と触れ合う機会を持っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	防災訓練や施設の夏祭りに、地域の方に参加を呼び掛け、利用者との交流をもつていただき理解を深めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、市役所の担当者、お世話センター、地域の方、家族などの参加があり、施設からの報告、情報を一般の方にも理解しやすいように、意見や提案をもらっている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を取り合い、運営推進会議にも参加してもらい、提案や、意見をもらっている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2階入り口のドア、エレベーターは開錠している。ベッド、車イスからの転落防止など家族とも相談し、安全策を工夫している。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や申し送り、カンファレンスで具体的な事例をあげ意見交換や指摘をし阿井職員同士で注意しあっている。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で、権利擁護に関する制度の勉強し、理解できるよう努めている。成年後見制度に関しては、施設外研修にも参加している。金銭管理に、不安を持っている家族に対する理解やサービスに努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に本人や家族に、施設に求めるサービスや要望を確認し、不安や疑問点を尋ね、契約事項の十分な説明と共に理解を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員会議や毎日の申し送り時に本人、家族からの要望は、伝え反映し、家族やりとりノートに記録している。家族からの要望が言いやすいような雰囲気づくりをしている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や、管理者は毎月開催している職員会議にて職員からの意見を聞いたり、家族会などのイベントの打ち合わせにも要望や、意見などを聞き、運営にいかされている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員のレベルアップや、資格取得を推進している。処遇改善や、職場環境にも職員の意見や、要望を聞き、やる気や働き良い環境を作っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者をはじめ、全職員が研修を受ける機会を、確保し積極的に参加できるように、努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、質の向上を図るためもあり、他施設が集まる研修や、勉強会に参加し、同業者との情報交換などの交流を推進している。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前から、本人や、家族の気持ちや、状況を見聞きし、本人、家族に安心してもらえる環境や、関係づくりをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前から、家族が困っていること、不安、要望を聞き、遠慮なく相談できる関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が、必要としている支援や、必要と思われる支援を、できるだけ叶えられるよう努めるため、運営推進会議で提案、意見をもらったり、お世話センターや主治医などに相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から生活を共にし、一緒に過ごしている関係づくりを意識した支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人からの要望や思いについて、一緒に考え、提案を出し合い協力してもらい、本人と家族の思いがつながるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いままでの生活が継続できるよう支援したり、なじみ深い人たちとも交流が続けられるよう家族や、地域の方にも協力を、お願いしたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の助け合いや心配したり、思いやったりする人間関係を大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了し新しいサービスを受ける際には、家族や、新しい関係者に情報を伝えています。亡くなられて退所された方には、家族に対して心を寄り添える、支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向と家族の要望をくみ取り、実践できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から本人の生活歴や、の聞き取りにより情報収集している。情報は、センター方式を活用して職員全員が、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の状態をここに記入し、朝の申し送り時や、引継ぎ時に必ず伝達している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや職員会議で、アセスメント、モニタリングを行い、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの上級を詳細に生活記録、業務日誌に記入し、情報は毎日の申し送り時にミニカンファレンスとして、共有しケアの向上や、見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不意の外出や本人の意向による買い物にも同行している。本人希望の病院やリハビリ、入浴日の変更なども臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族会には地域の方を招待し、親睦を深めている。また商店や美容、理容店を利用し地域資源の活用を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、かかりつけ医の往診を受けており、それ以外にもこまめに状態の報告を行い、指示を仰いでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う状態に気づいたら、看護師や医師に報告し、指示を仰いでいる。また、夜間でも対応できるような、態勢を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師を中心に、安心して入院治療ができるように情報提供を行い、退院後もスムーズにホームでの、生活ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と、終末期に向けた[その人らしい生き方]を話し合い、支援していけるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や、事故についてのマニュアルは、作成されている。職員会議で、問題提議から対応方法までの訓練を行っているが、充分ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回地震、火事、水害などを想定した訓練を行っている。年1回は、隣近所をお誘いし、地域の避難訓練に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格を尊重し、配慮している。職員間でも指摘したり、研修に参加し、学んでいる。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人一人が、自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それを促す取り組みを、日常的に、行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、職員側の都合で業務を勧めるのではなく、利用者が、自由に自分のペースを保ちながら、暮らせるように、支えていけるよう、努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族から、好みやおしゃれ方法を聞き、今までと変わりがないような身だしなみができるよう、支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に際して食欲を高め、楽しく食べられるような、言葉かけや、環境を作っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、細かくチェックしている。栄養面ではバランスや、食べ方、容器の工夫など考えている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。口腔ケアが難しい方もいるので、歯科医師の指示のもと、口腔ケアができるよう声掛けや介助をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、利用者一人一人の排泄パターンを、把握している。声掛けによるトイレ誘導や車イス		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある方には、医師より緩下剤が処方されていますが、野菜中心の食事や、水分補給、運動なども、促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望に応じた時間帯や、タイミングで入浴を支援している。入浴を拒む方には、声掛けの工夫や、誘導方法、順番などの工夫をして、楽しい入浴になるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快い睡眠を促せるよう、日中の生活活動や精神の安定に配慮している。夜間巡視時の見回りや、排泄介助にも、入眠の妨げにならないよう、また、安心して休まれるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正しい配薬ができるように、ダブルチェックを行い、事故防止に努めている。服薬内容が、一目で確認できるように、処方内容が、わかりやすく記録されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族会、誕生日会の行事、催しも一緒に計画したり、園庭で野菜を作り、四季折々の味覚や、それらを使用したメニュー作りなどを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、家族との外出、ラジオ体操後の散歩、畑の見学、花見やドライブなどを、本人の希望や声掛けでお誘いし、楽しんでもらえるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で管理している。本人が希望すれば一緒に買い物に行ったり、買ったりと、必要に応じて支援している。家族には、連絡をとり、報告したり、小遣いノートに、記入し確認を取っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙は、本人につないでいます。本人から、家族への思いも、職員が代弁し、気持ちが途切れないように努めています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは、季節の花を飾ったり、手作りカレンダーには季節や楽しかった思い出をかいいたり、季節感ある楽しい雰囲気になっている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際には、ソファを設置し利用者同士がテレビを見たり、雑談をしたり過ごしている。自室には、自由に出入りしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた、馴染みの物や、本人や、家族が希望する好みの物を、居室に設置し、心地よく過ごせるようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間の手すり、段差解消、自室のナースコールの設置など、安全に過ごして頂けるよう配慮している。自室のベッドの高さは、利用者にあった高さにし、転落、転倒防止に畳使用の配慮もしている。			